

1 児童に付けたい資質・能力 【学習面】(木上小グランドデザインから)

(1) **判断力** (課題に対して既習内容や資料をもとに比較・検討し、自分なりの根拠をもって考えを選択・表現できる児童)

- 根拠に基づいて考える力 (情報収集・取捨選択力、発想力、想像力)
- 多面的に比較・検討する力 (批判的思考力)
- 状況に応じて考える力 (意思決定力)

(2) **読解力** (文章や資料の内容を正しく読み取り、要点や筆者の意図を捉え、自分の考えと結び付けて理解できる児童)

- 情報を正確に読み取る力 (語彙力、要約力)
- 行間や意図を捉える力 (推論・解釈力、論理的思考力)
- 自分の考えと関連付ける力 (情報活用力)

(3) **協働力** (友達と考えを交流しながら課題解決に取り組み、互いのよさを生かして学びを深めることができる児童)

- 相手を尊重し、受け入れる力 (傾聴・共感力)
- 自分の考えを伝え合う力 (表現・対話力)
- 役割を果たし、協力 (協働) してやり遂げる力 (協力・貢献力、コミュニケーション力)

	学習面	生活面	具体的要素(■)
判断力	課題に対して既習内容や資料をもとに比較・検討し、自分なりの根拠をもって考えを選択・表現できる児童	場に応じた行動(礼節・安全・思いやり)を自ら考え、正しい行動を選択できる児童	■根拠に基づいて考える力(情報収集・取捨選択力、発想力、想像力) ■多面的に比較・検討する力(批判的思考力) ■状況に応じて考える力(意思決定力)
読解力	文章や資料の内容を正しく読み取り、要点や筆者の意図を捉え、自分の考えと結び付けて理解できる児童	相手の話や気持ちを丁寧に受け止め、意図をくみ取りながら適切に応答できる児童	■情報を正確に読み取る力(語彙力、要約力) ■行間や意図を捉える力(推論・解釈力、論理的思考力) ■自分の考えと関連付ける力(情報活用力)
協働力	友達と考えを交流しながら課題解決に取り組み、互いのよさを生かして学びを深めることができる児童	思いやりと親和の心をもって友達と関わり、互いに支え合いながらよりよい集団生活を築くことができる児童	■相手を尊重し、受け入れる力(傾聴・共感力) ■自分の考えを伝え合う力(表現・対話力) ■役割を果たし、協力(協働)してやり遂げる力(協力・貢献力、コミュニケーション力)

2 9月18日(金)の学級通信から抜粋

先週は国語「やくそく」で、劇と音読の発表会をしました。登場人物の気持ちがよく分かるように発表しようと、登場人物の気持ちを読み取ったり、それが分かる言葉を見つけたりして、音読に生かしてきました。劇で発表した子どもたちは、お話の続きまで考えて、蝶になって会話をし、お話を広げました。音読をした子どもたちは、練習のたびに正しく読み、気持ちが伝わる読み方ができるようになりました。(1年)

「ごんぎつね」の学習が始まりました。1時間目は、物語を読んで感じたことや、気になったこと、疑問に思ったことをノートに書きました。

「ごんはいたずらをする悪いきつねだけど、やさしい心ももっていると思う。」

「兵十にいたずらをしたことを、ごんは後悔しているんじゃないかな。」

「ごんの思いは、兵十に伝わったのかな？」

「ごんもかわいそうだし、兵十もかわいそうだと思う。」など様々な視点から読む姿が見られました。1時間目から、子どもたちの「？」や「！」が生まれていたことをうれしく思います。本校では「読解力」の向上にも力を入れています。文章を読んで終わりではなく、「なぜ?」「どうして?」と立ち止まって考え、自分なりの考えをもつことを大切にしていきたいと思います。(4年)

最近の算数の授業では、子どもたちが自分たちで考え、学びを進めていくことを大切にしています。15日の「立体の体積」の学習では、算数リーダーを中心に角柱の体積の求め方について、一人一人が自分の考えをもち、それを友達と伝え合いました。そして、友達の考えを聞いたり、自分の考えと比べたりする中で角柱の体積の求め方を自分たちの力で導き出すことができました。「先生から教えてもらう」だけでなく、「自分たちで考え、話し合い、答えを見つけていく」姿に、子どもたちの成長を感じました。これからも、子どもたちが主体となって学ぶことのできる授業を目指し、自分で考え、友達と学び合いながら、自分たちの力で学びをつくっていく力を育てていきたいと思います。(6年)

3 通信の文章等から見える木上っ子の今とこれから

先週の授業の様子を見たり、学級通信を読んだりしていると、木上小学校のグランドデザインに掲げている「読解力・判断力・協働力」が、子どもたちの学びの中に少しずつ根付いていることを感じます。

(1) 1年生の「やくそく」

ただ文章を読むだけではなく、「登場人物の気持ちが伝わるようにするには、どの言葉をどう読めばよいか」を考え、音読や劇に生かしていました。

さらに、劇では教科書の物語の続きを自分たちで考え、蝶になって会話をするなど、学んだことをもとに想像を広げています。

これは、まさに読解力から判断力へ、そして表現へと学びが繋がっている姿です。

(2) 4年生の「ごんぎつね」

最初の時間から一人一人の「？」や「！」が生まれていました。私は、この姿をとっても大切にしたいと思います。

「先生が問いを与える」のではなく、「子ども自身の中に問いが生まれる」。そこから、本当の意味での読解が始まります。

(3) 6年生の算数

自分で考え、友達と伝え合い、比較しながら、自分たちで答えを導き出していました。

これは、国語にもそのままつながります。これからの国語の授業では、ぜひ、「何が書いてあるか」だけで終わらせないで「なぜ、そう書いてあるのか」まで考えることが大切です。そして、「自分はどう考えるのか」を言葉にするという学びを大切にしていきたいでしょう。

先生方が授業の中で一つ一つ仕掛ける「なぜ？」「どうして？」「あなたはどうか考える？」という問いが、子どもたちの力を育てていきます。

教師が教えすぎない。子どもに考えさせる。子ども同士をつなぐ。そして、子ども自身が「分かった」「できた」「もっと考えたい」と感じる授業をつくることを再度意識しましょう。

すでに、木上小学校の教室には、「自分で考える子」、「友達と学ぶ子」、「自分の言葉で表現する子」が育っています。

私たちの役割は、その芽を見つけ、認め、さらに伸ばしていくことです。これからも、先生方一人一人の授業実践を、学校全体で支え合いながら進めていきましょう。



4 今後の授業（国語）づくりで教師が意識したいこと（グランドデザイン関連）

- ☐ 文章・資料を読む
- ☐ 根拠をもとに考える
- ☐ 友達と考えを交流し、自分の考えを深める

基本形は「読んだ」「考えた」「比べた」→「深まった」という学びの流れです。

そして、授業後に教師自身が、「今日の授業で、子どもの『読解力・判断力・協働力』のどの姿が見えたか？」を振り返るようにすると、グランドデザインが単なる掲示物ではなく、日々の授業改善の物差しになっていくと思います。

特に、4年生の「ごんぎつね」で生まれた子ども自身の「？」や「！」を、単元を通してどのように育て、最後にどんな「自分の考え」にたどり着かせるのか。ここは、木上小学校の国語の授業づくりを考える上で、とても大切な視点になりそうです。

